

低炭素社会の構築 環境にやさしい お買い物

エコ・ファーストの約束

3

気候変動の原因とされる地球温暖化は、CO₂など温室効果ガスの増加が原因といわれています。日本では2011年の東日本大震災で省エネの意識が高まったものの、原子力発電から再生可能エネルギーへの移行が進まず、火力発電など化石燃料での発電に頼り、さらにCO₂が増加しています。しかし、地球温暖化は地球環境保全の最大の課題です。この解決には再生可能エネルギーを創造し、そして私達が暮らし方を見直し、ライフスタイルを低炭素型に変えていく必要があります。ユニーは店舗を低炭素型にすること、そして「環境にやさしいお買い物」を提案しお客様と一緒に低炭素社会実現による地球温暖化防止に努めます。

地球温暖化とは

地球環境の現状

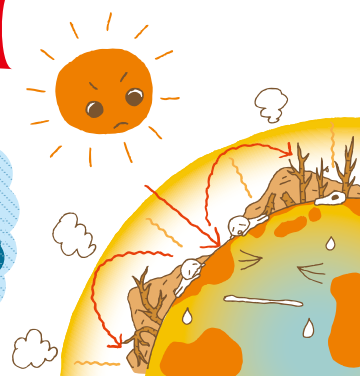
CO₂などの温室効果ガス（GHG：Green House Gases）の増加により、地球表面から出てくる赤外線が吸収・再放出され大気中に熱が溜まり、地球温暖化が進んでいるといわれています。本来自然界で発生したCO₂は、森林や海洋による吸収によりバランスが取れていたのですが、人間が化石燃料（石油や石炭、天然ガスなど）を消費するようになり、吸収しきれなくなっていました。

地球温暖化は、化石燃料をエネルギーとして電気を起こしたり、自動車を走らせたり、冷暖房に使用することにより温室効果ガスを排出し、また熱を放出していることが原因といわれています。このまま地球温暖化が進むと、100年後には大気中の温室効果ガスがさらに増加し、平均気温が上昇し、多くの生き物が生存できなくなるといわれています。

地球温暖化の一番の原因は
二酸化炭素!!



温室効果ガス (GHG)



CO₂排出量を減らすための取り組み

地球温暖化の原因といわれているCO₂の多くは工場や輸送で発生していますが、私達の日常生活からの量も少なくありません。家庭での電気製品や自動車の使用だけではなく、スーパーの買い物由来のCO₂もあります。例えば石油を使った温室栽培の野菜や果物、飛行機で運ばれた輸入食品も、旬の作物や地産地消の食品に比べると、CO₂の発生は多いのです。また商品の容器包装やレジ袋もゴミになり焼却すればCO₂が発生します。商品を選ぶとき、旬のもので地元産のもの、容器包装の少ないものを選びレジ袋を断れば、それだけCO₂の発生が抑えられ、低炭素社会に貢献できます。

フロン排出抑制法への対応

地球温暖化とオゾン層破壊の原因になるフロンの排出抑制を目的に、フロン排出抑制法が2015年4月1日に施行されました。業務用エアコン、冷凍冷蔵機器の管理者に、機器およびフロン類の適切な管理が義務付けられました。

ユニーでは、総務部を中心にグループ環境社会貢献部、建設部、サン総合メンテナンスから部署横断のタスクフォースを作って対応に当たりました。法律が施行された4月には、「フロン排出抑制法 対応マニュアル」を策定し、店舗での管理運用を開始しました。

フロン排出抑制法の概要／～所有者・使用者による排出の抑制義務～

1 簡易点検・定期点検の実施

2 漏洩を発見した場合、速やかに漏洩箇所を特定し修理

3 機器整備に関する履歴の記録・保存

4 算定漏洩量の報告

ノンフロン冷蔵ケース

テラスウォーク宮の青果売場にフロンガスを使用しないCO₂冷媒を用いたノンフロン冷蔵ケースを導入しました。地球温暖化の原因物質の排出を抑える狙いがあります。



ノンフロン冷蔵ケース

低GWP・ノンフロン製品への転換

古い機器の多くに特定フロンのR22が使用されています。オゾン層保護法によって2020年の生産が廃止されているため、低GWP・ノンフロン製品への転換を迫られています。



アビタ稲沢店 室外機

フロン類と自然冷媒

種別 (冷媒番号)	性質 オゾン破壊係数	地球温暖化係数	フロン排出 抑制法	規制概要
CFC (R12 ほか)	大 0.8 ~ 1.0	大 4000 ~ 10000	該当	1995年末に 製造中止
HCFC (R22 ほか)	中 0.02 ~ 0.11	大 100 ~ 2000	該当	2020年までに 原則全廃
HFC (R134a, R410A ほか)	小	大 1000 ~ 4000	該当	
CO ₂ (自然冷媒)	—	—	非	